

第 7 回「こうとう未来ミーティング」実施結果

開催日：令和 6 年 9 月 8 日(日曜日)

会場：深川江戸資料館 レクホール

参加人数：17名(内、オンライン参加1名)

実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・江東区は外国籍の方や新しい方など多様な方がいる。民間の企業や病院もある。そういった多様な力と DX の力を基盤として、もっとインクルーシブで安心な地域社会をつくることのできるポテンシャルがある。一方で、防災や、新しいタワーマンションの増加、液状化の問題など、気になる課題もある。
- ・都市整備では、新しい地下鉄網やコミュニティバスなどの案もあるが、南北のアクセスの難しさがある。特に介護や障害福祉の分野では不便を感じている方もたくさんいる。解決策として DX を活用したライドシェアなどの新しい方法考えられるのではないかな。
- ・図書館、保健相談所などの大変素晴らしい施設をもっと活用することで、住民の価値観をインクルーシブに変えていけるポテンシャルがある。
- ・子育て、女性に関して、既に頑張っている施策もあるが、「点」の施策になっている。6 歳まで、小学校、中学校とつながる終わりなき子育てを支援してほしい。
- ・女性も誰もが、もっともっと活躍できる環境整備が非常に重要になっている。
- ・江東区は魅力が非常にある地域だ。下町の文化も残っていて、人と人の繋がりもある一方で、外からの新しい人を少し寄せ付けないというところもある。地域の力をパワーにして、インクルーシブな社会、助け合いの地をつくるポテンシャルがある地域である。これを行政だけがやるということではなく、民間の力も使う。例えば、行政の中に人材として民間の方を入れるのも一つの手ではないかな。
- ・DX は車の運転と同じように誰もが使いこなし、DX によって人間力を引き出すことが一番の鍵になってくると思う。それを進めるためには、行政だけではなく、みんなで社会課題を解決しながらつくっていく、といった体制作りが必要ではないかな。

【グループ 2】

- ・町会の広報について、若いお母さんたちをどうやって町会に巻き込むか。町会の活動はいろいろやっているが、ポスターを作って広報してもなかなか人が集まらない。町会の運営では、高齢化の問題があるが、若いお母さんたちは忙しく、運営や企画を提案するところに参加できない。
- ・一つの町会だけではなく、複数の町会や学校を巻き込んで、大きなコミュニティで活動を起こしていくことが大事なのではないか。
- ・こども主体で町会の活動を進めることも大事なのではないか。若いお母さんたちは忙しいので、例えば、こどもを巻き込んで、こども会の活動を活性化させることで、お母さんたちも巻き込んでいくことができるのではないか。また、こどもが大学生など大きくなると、お母さんたちも地域から遠のいてしまうので、活動にどんどん巻き込むためにも町会長たちの力も大事ではないか。
- ・高校生などは、LINE など IT の力を借りても、町会活動につなげるのは難しい。
- ・自分も、こども会に参加してきたが、こどもの年齢が上がってくると、地域活動への参加が少なくなる。友達やこどもも行かなくなれば、行く機会が減る。
- ・町会の皆さんが、こどもが小さいうちから育ててくれている。お母さんに対しても、そういったコミュニティがあり、「元気にしているか」「今日おいで」と言ってもらえると、行ってみようという気持ちになる。まちの中に行く場所があるのが今すごく嬉しいと痛感している。このように、声をかけてもらえるコミュニティが、人を集めていくきっかけになる。
- ・防災については、助ける側、共助の側の人が必要ということが、常に課題としてある。
- ・高校生や女性もタッグを組んで、防災行動力を高める。小さいうちから取り組むことで、まちの中でご縁がある人達を誰ひとり取り残すことなく助ける、という意識を育てていきたい。そのための教育が大切で、消防団としても防災行動力を育てていきたい。
- ・情報伝達について、回覧板をアナログから LINE にするという話もあるが、扱いづらい年代も、得意な年代もいる。大きな枠組みで江東区からも協力・指導をいただき、情報を共有していきたい。

【グループ3】

- ・高齢者とこどもが交流できる場をつくり、高齢者の方には昔ながらの遊びを教えてもらい、こどもたちと一緒に遊んでもらう。読み聞かせなどの時間を作ってもよい。
- ・学童保育の対象にならなくなった小学校（高学年）を一時的に高齢者が見守ってあげるような時間帯があって良い。そうすることで、お買い物に行きたいが、こどもがいるから行けないというお母さん、お父さんたちも、こどもを気にしないで買い物に行く時間が持てる。シングルで子育てをしている人、ワンオペ家事・育児になっている人のサポートにもなるのではないかな。高齢者の孤立、孤独、寂しさの防止ということもあるが、こどもにとっても良い効果がある。小さい頃から高齢者と触れ合っている人は、将来高齢者をサポートする傾向があるという研究がある、と聞いた。また、高齢者とこどもの場にお母さん、お父さんが迎えに来ること、親世代と高齢者の繋がりも生まれる。
- ・高齢者とこどもが繋がることで、親世代の参入を促すためにも、「お祭り」などを町会でも頑張っていきたい。
- ・地域と住民の繋がりについて、最近、新しいマンションの人たちが町会に入ってくれないという話を聞くが、マンション住民でも町会に加入しているという成功例を共有する場があったら良いのではないかな。
- ・地域の繋がりとして、地域包括支援センターとの連携という話があった。
- ・地域の見守り支えあいセミナーに出たが、老々介護、老々見守りの話があった。町内会の見守り隊も高齢化している。若者たちが町会に入会していくことでより強い見守りができる。そのためにも、地域包括支援センターの機能を周知し、活用してもらいたい。
- ・せっかく江東区で「認知症サポーター養成講座」をやっているのだから、地域のスーパーとかコンビニの店員に対しても教育ができるようになると良い。
- ・外国人との繋がりについて、学校のグローバル化や多様性への理解について、日本語ができる外国人のこどもたちが多いので、こどもたちが地域のイベントに参加することで、地域との交流を深めていける。高齢者とこどもの交流の場にも、外国人のこどもに積極的に参加してもらうことで日本文化の浸透もできる。
- ・最後に江東区で「婚活支援イベント」をやってみてはどうか。区内のカップルの定住、それからこどもの少子化対策にもつながる。

【グループ4】

- ・江東区がもっと良いまちになるためのキーは「繋がり」である。8つの政策の一つ一つは意味のあるものだが、さらに人と人との繋がりを持つことで、評価ができ、政策の意味をなす。
- ・待機児童について、今はゼロだというのが本当か。こどもたちが人的環境においても物理的環境においても親も子も本当に納得して保育の質が高いところに預けられているのか。我慢して行っている人もいるのではないか。
- ・こどもが熱を出したとき、共働きだと預け先がなくて仕事を休む。近くに両親や親戚がいない場合は自分たちに負担がかかってくる。
- ・特別養護老人ホームについて、江東区には年金の範囲内で支払って住める場所が少ない。
- ・地域の課題をどう解決していくかという、こどもがキーワードになってくる。こどもたちが思いやりを持って育ていってくれれば、今後このまちをサポートしてくれるのではないか。そのため、こどもに関わることで、町会で御神輿を担ぐとか、行事やイベントに参加してもうといった繋がりは今でもある。高齢者からいろんなことを学ぶ、こどもを高齢者が見守るということは事実としてある。
- ・潜在的保育士など、高齢者でもお子さんのケアができる。そのような人のお力を借りて、熱が出たときに援助してもらおうとか、中高生や大学生、ヤングケアラーの人など、高齢者からの意見や話を聞いてもらうことで救われることがある。
- ・様々な世代の関わりをもっと増やせる場を実際に作ってはどうか。空き店舗や空き家の活用も取り組みの一つになる。
- ・企業主導型保育事業（認可型保育園）の園長として仕事をしていたが、火事が出たときに、隣の保育園にそのまま逃げるといふ仕組みを作った。認可外同士だったが、園同士の繋がりもできた。いざ何かあったとの仕組みをつくることで、1人1人の危機管理能力が上がり、人と人も繋がっていくのではないか。
- ・思いやりのあるこどもが育つことで、おそらく江東区に将来できる特別養護老人ホームの支援側になったり、防災に対して、支援側の人材育成に繋がっていく。その結果、江東区に住んでいたい、住んでみたい、戻ってからも住んでみたい、というまちづくりになるのではないか。